

令和 7 年度 アクションプラン 2

重点項目	基礎学力の確立		
重点課題	相手を意識して話を聴いたり、自分の思いや考えを相手に伝えたりすることができる。		
現 状	昨年度は、「聞き方話し方ハンドブック」を学級の実態に応じて活用したことにより、発表等の表現活動に対する意欲が高まった。また、「ソーシャルスキルトレーニングタイム」を設け、相手の気持ちや立場を考える機会を増やすことで、相手の気持ちを考えて自分の思いを伝えようとする意識を高めることができた。しかし、他者から評価してもらう機会を十分に設けることができず、発表者が伝えたいことが相手にきちんと伝わっているのかを確認することが不十分だった。 相手に伝わる表現力を育てるためには、聴き手がしっかりと発表を受け止める力を身に付けることが必要である。そこで今年度は、自分の思いや考えを伝えることに重点を置いた上で、相手の話を意識して聴くことにも力を入れていく。聴き手が聴き方の基本を基に発表者の話を聴き、発表者にフィードバックすることで、相互評価による話し手の思いや考えを伝える力の向上を目指す。		
達成目標	相手を意識して話を聴いたり、自分の思いを相手に伝えたりすることができたと自己評価する児童が 85%以上		
方 策		評価	
		中間	年度末
①	学校や家庭等様々な場面で、児童が自分の思いや考えがうまく伝わるよう、適切な表現方法(資料、言葉、絵や図、話の組み立て等)を選択し、相手を意識して話す場を設ける。	A	A
②	授業の中で、話の聞き方の手本を基に相手を意識して話を聴き、発表者にフィードバックする場を設ける。	A	A
総合評価	A	「友達の思いや考えを、興味をもって聴くことができた」や「聴き手を意識して、自分の思いや考えを伝えることができた」等の項目で 85%を越え、目標を達成した。うなずいたり、ハンドサインを用いたりしてフィードバックをするなど、話し手に自分の思いを伝えることもできた。	

<評価基準> A…達成した B…ほぼ達成した C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

取 組 状 況
1 達成目標の実態 聴く項目「友達の思いや考えを、興味をもって聴くことができましたか」「友達の発表を聴くとき、感想や質問ができるように話を聴きましたか」では、1 学期より「よくできた」「まあまあできた」と回答した児童の割合が増えた。話す項目「聴き手を意識して、自分の思いや考えを伝えることはできましたか」では、保護者は、1 学期の 72%から 86%に増加した。一方、児童は、91%から 85%に減少した。 2 方策について 中間評価の後、教職員間で「聞くこと話すことハンドブック」をより活用することについて共通理解を図り、活用する機会を増やした。その結果、児童がハンドブックを活用する機会が増え、ハンドブックの聴き方や話し方をしようとする児童が増えた。 また、フィードバックする場を設けることについて、有効な活用事例を紹介し合い、うなずきやハンドサインも効果的な手段の一つであることを教員間で共有することで、発表者に対して、全員が常にフィードバックする意識をもつことができた。その結果、児童は日常的に相手の話を聴こうとする意識が高まったと考える。 3 今後の課題と改善策 - 児童は話すことや伝えることに関して、伝えたい気持ちはあるが、十分に伝えられたという実感が低い。話し方や自分の思いや考えを整理して伝えることに課題があると考えられる。今後は、振り返りや感想等を書く活動の場を確保し、児童の表現力を高めていく必要がある。 - 友達の発表に興味を持って聴き、うなずきやハンドサインを用いて積極的にフィードバックしている児童が多い。しかし、「自分の発表について、友達の思いや考えを伝えてもらうことで、自分の発表のよさやよりよくする方法が分かりましたか。」の項目が減少していることから、ジェスチャーでのフィードバックだけでは、発表者が、自分の発表について振り返るのは難しいと考えられる。聴き手も自分の思いや考えを言語化し、より具体的なフィードバックができるようにしていく必要がある。